

熊本市から宇土半島、天草五橋、本渡を経て陸路百二十キロ、車で約二時間四十分、天草下島の南、温暖にして風光明媚な、わが町「河浦町」がある。

歴史をたどると、町の中心部は以前「河内浦」と呼ばれ、延元二年（一三三七年）河内浦三郎氏の支配下にあった。後に、天草鎮種氏は城を構え島を統治、政治・文化の中心地として栄えた時代もあった。また、我が国にキリスト教が伝わり天正十九年（一五九一年）「天草学林（コレジオ）」が開かれ、水準の高い宣教師の教育が行われた。これに金属活字印刷所が併設され、日本では最初の活字本を出版「天草版」として文化史上に名を残している。

### 24年つづく町政座談会

— 町民主体の行政を徹底 —

町の誕生は、昭和二十九年十一月旧一町田、新合、富津三ヶ村の合併による。その後昭和三十一年四月旧宮野河内村が、三十二年三月牛深市の一部路木区が編入。東は不知火海、西は東支那海に面し、北に本渡市、新和、天草両町、南に牛深市と接し、東西に十三・五キロ南北に十五キロ、面積一九・五八平方キロで天草郡内では最も広い町である。合併編入後の人口は、農林漁業を中心に石炭産業の活況も加わって一萬五千人、町勢は隆盛なものがあった。昭和四十年に二つの炭鉱が閉山、過疎化が進んだ。以来人口の流出は年々つづいて、五十五年の国勢調査では、八千五百二十一人となっている。



▲町づくりにつづけられる対話…… (町政座談会)

こうした経済背景の中にあつて、新町施行以来一貫して推進してきた町政施策の重点は、①人づくり教育の充実推進 ②産業の振興 ③生産基盤、生活環境の整備と福祉の充実であった。町政を進める基本姿勢は、広報公聴活動を主とする町民主体の行政を進めること。とくに、公聴活動では、町政に町民の声を反映させるため、三十二年から移動町政座談会を毎年つづけて開き、今年で二十四回目である。町内三十会場で当年度の施政方針、予算、事業計画を説明、広く意見を求める。出席率も七十パーセントを超え、町民との間に定着してきた。寄せられた意見は、町道の改良舗装、農地の基

### 暮らしよい町をめざす

### 教育行政、道路整備に高い実績

盤整備、簡易水道の普及など施策の中に生かされ、こうした町民との対話は、町づくりに大きな役割を果たしてきた。

このほか、昭和四十七年から町の機構に「行政相談室」を設置、陳情、要望、緊急処理事項などの受付、処理に当り、年間取扱四百件をこえ、活用も多くの公聴活動の徹底に努めている。

#### 校舎体育館改築は完了

これまでの町づくりの成果は、まず教育面で、昭和三十三年文教施設整備計画に着手、町内七つの小・中学校の校舎改築、体育館建設、屋外運動場の整備を目標とした。五十四年度で全校舎の改築を



▲子牛の生産をはじめ、畜産の伸びはめざましい



▲生産額10億円にせまる真珠養殖 (核入れ作業)



▲寛永年間から伝わる虫追旗

終り鉄筋化は県下最高の実績を納めるなど計画は完全に実施した。教育の機会均等と有用な人材育成を目的に、昭和三十四年独自の奨学資金給付条例を制定、卒業後も返さなくてよい完全給付で、これまでに三百九十名の高校・大学生を社会に送り出してきた。さらに、小・中学校児童生徒に修学旅行、通学費、新入学生、各種大会出場などに補助、教育費の父兄負担の軽減にも努めている。

#### 長期展望に立つ 農業政策の推進

産業面では、第一次産業に五十六パーセントが就業しており、なかでも農業が主体である。第一次、二次農業構造改善

事業、羊角湾地域開発事業等の実施による樹園地の造成、圃場整備、大型ハウス、大型機械の導入等基盤整備や近代化を推進してきた。農産物は、水稲、甘夏、温州みかん、キュウリが主体で畜産を含め農業生産額は十八億円をこえる。米の生産調整下における農業情勢の厳しい中で、今後は地域農政特別対策、新農業構造改善、農用地高度利用促進の各事業等を取り入れ、大規模な基盤整備を実施しながら、長期的な展望に立った農業振興計画を進める。

#### 道路舗装は百%

道路網の整備は、国道二六六号線改良

は完了されており、三八九号線の本格改良もすでに着手をみている。県道改良も計画以上の実施で整備が進んでいる。町道は百七十五線総延長百九十一キロあって、六十パーセントの舗装を終った。このうち人家のある区間は百パーセントを超える舗装率で、この実績は高い評価を得ている。また、町道の本格改良にも着手している。

#### 町立病院で総合検診

— 健康管理に大役果たす —

生活環境の整備は、ごみ処理場を隣接天草町と共同処理することで四十八年度から操業、し尿処理場の建設計画もある。簡易水道は、八施設を設置、住家は広い地域に散在しているなか、町民の六十パーセントに給水している。今後は、下水路、公園の増設等が課題である。

保健衛生面では、昭和二十九年に町立病院を開設、病床数二百二十六床、内科、小児科、外科、産婦人科を置き、地域住民の診療活動を行ってきた。この病院施設を活用し経費を町で負担しながら、一般町民の胸部、胃、循環器、婦人科等の総合検診を実施、毎年千名を超える利用があつて、健康管理に果す役割も大きい。

#### 町制25周年新たな出発のとき

今日、町の誕生から二十五年を経過、新しい出発のときで、これまでの施策の実績と築いてきた土台を、町民の生活や生産に結びつけ、住民主体の行政を徹底しながら、暮らしよい町をめざして、さらに躍進を期している。